

昭和62年4月17日、消防科学総合センター会議室でセンター設立10周年記念のパーティが開かれ、筆者もお招きを頂いて出席した。原徳安理事長がセンターの過去10年の歩みを含めてごあいさつされるのを聞きながら、財団設立当時の苦勞を思い出し、そして当時消防庁総務課長として一番苦勞された原さんが現在理事長をされ、補佐としてお仕えした筆者が総務課長として出席しているめぐりあわせを感慨深く思ったことであった。

消防科学総合センターは、昭和52年4月、財団法人消防科学情報研究センターとして発足し、昭和57年に、財団法人消防研修協会の解散に伴って従来同協会が行ってきた消防研修等に関する事業を引き受けるため、目的、事業等を変更、追加し、名称も現在の消防科学総合センターと改めて今日に到っている。

当時の一件書類を探し出して設立趣意書を見てみた。「火災、災害及び事故に関して、調査研究及び情報資料の収集分析等を行うことにより、消防に関する諸制度、技術、施設、設備等の普及、改善に資し、もって国民の生命、財産を保護し、社会公共の福祉の増進に寄与しようとするもの」とある。

中央、地方を通じて相当量にのぼる消防

防災に関するデータの散逸を防ぎ、有効に活用できるよう、センターで資料の収集、保管、分析を行うとともに広く一般にも情報の提供を行うというもので、防災に関する我が国唯一のデータバンクの設立という意気込みであった。

あれから11年、多様なデータを集積し、諸研究を行って刊行物として世に問い、陣容の強化が図られてきている。季刊誌も誕生した。「消防科学と情報」の命名は、なにかスタートの時のセンターの名前へのこだわりが感じられる。

各種の情報を収集、蓄積し、求めに応じてそれを提供するデータベース・サービスは年々拡大成長を続けている。「サーチャー」というデータベースから必要な情報を探し出す新職業も誕生し、活躍しているという。

防災に関するデータベースも、本センターのほか各方面で研究、構築されているが、その普及活用方策がどうなっているか気になるところである。サーチャーのお出ましと

まではいなくても、一般人が、民間法人が、あるいは行政関係者がどのように活用できるかについて積極的なPRを期待したい。

随 想

データバンクの活用

消防庁審議官

島 崎 實